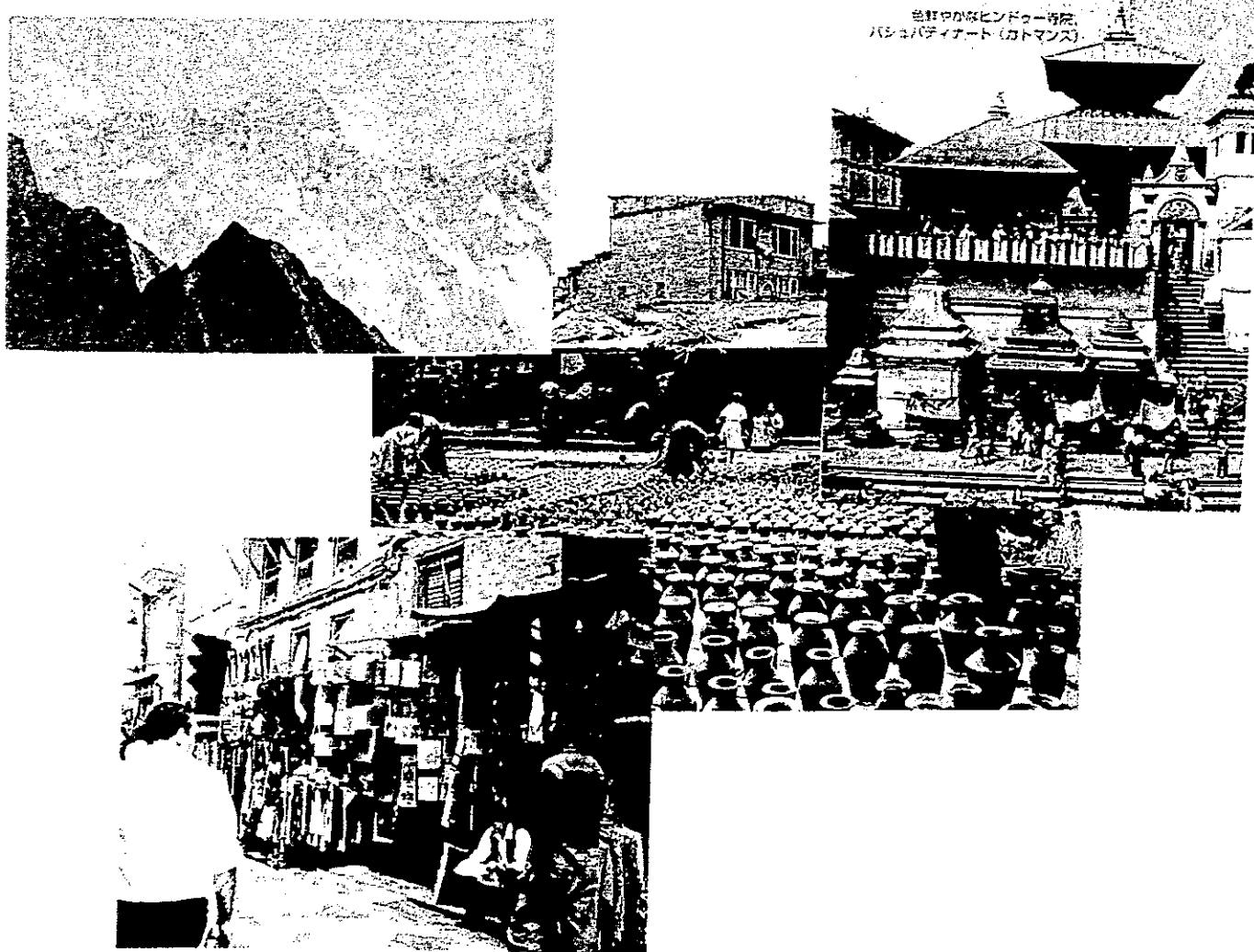




プール学院大学ネパール研修

ネパール知つ得レポート



色鮮やかなヒンドゥー寺院、
バショバディナート（カトマンズ）

2000年9月3日～9月24日

目次

		ページ
地理・気候	・・・	榎原 佐知子 1
		安田 あゆみ 3
歴史	・・・	奥村 純子 6
政治	・・・	國方 奈津子 8
言語	・・・	佐藤 文香 11
教育	・・・	石井 愛子 13
宗教	・・・	速水 亜沙子 15
生活習慣	・・・	福田 しほ 16
食文化	・・・	竹口 利香 21

複原 佐知子

地理・気候

ネパールは東西約800km、南北約150kmから200kmの長方形の形をした国で、北海道の約2倍ほどの広さがあります。中国（チベット）、インドに囲まれた海のない国で狭い国土ながら、南のタライから世界最高峰のエベレストまでその標高差は実に8500mを超える王国です。

ネパールは世界最大の自然博物館です。独特の地形と高度（標高）差が生態の多様性をもたらし、世界でも有数の動植物の宝庫として知られています。海拔60mの最も低い地点と、標高8848mのエベレストという最も高い場所が南北150kmの国土にあり、亜熱帯性気候から北極性気候に至るまで、様々な気候風土を生み出しています。



位置： インドと中国チベット自治区の中間地域

面積： 147,181km²（北海道の約2倍）

緯度： 北緯26°12' ~ 30°27'

経度： 東経80°4' ~ 88°12'

首都： カトマンドゥ

地形： 国土の80%は丘陵、山岳地帯（8000m以上の山が8つある）

植物： 地形の関係により亜熱帯樹林。アルプス地方の植物相が観察される。

気候： 低地の亜熱帯気候から高山の厳寒帯気候まで。

季節： 冬（12月～2月）、夏（3月～5月）、モンスーン（6月～8月）

秋（9月～8月）

モンスーン：この期間中に年間降水量の80%の雨が降る。しかしヒマラヤ山脈の北側は雨期の影響はない。

国鳥： ニジキジ（ダンフェ）

国花： シャクナゲ（ネパール語でラリグラス）

国旗： 三角形を2つ縦にならべた独特の形で世界唯一のもの

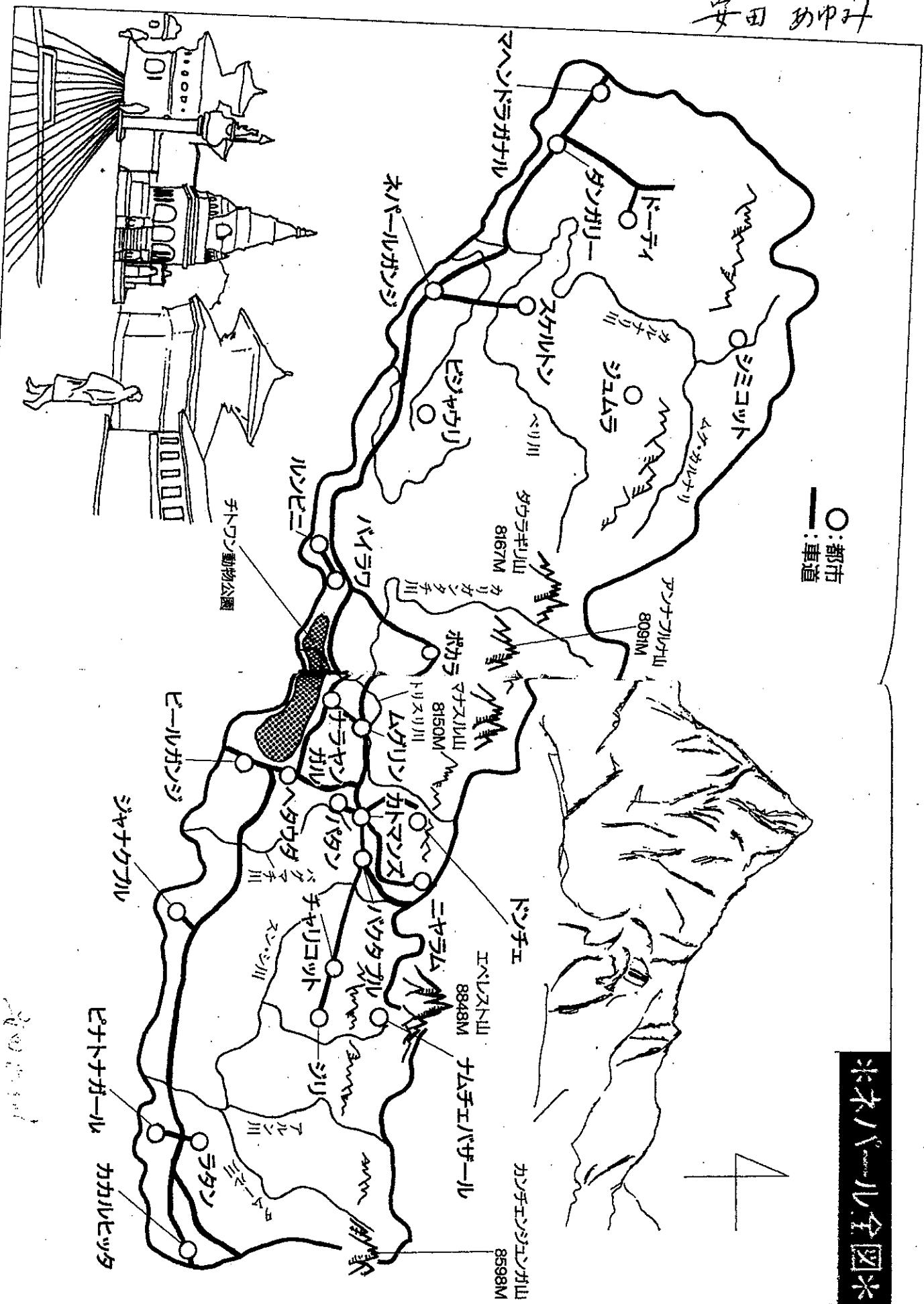
◎ ネパールの気候と旅の服装

ネパールの気候は雨期と乾季に分けられるのが一般的です。狭い国土ですが標高差があるため気温は様々です。一般的に日本よりも乾燥しているため、1日の中で寒暖の差が激しいのが特徴です。山岳地帯ではこれより冷え込み、富士山よりも乾燥しているため直射日光も強く、昼間はかなり暑くかんじるかもしれません。服装は重ね着が基本で、暑くても油断せずに1枚はおるものを持参するといいでしよう。

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	最高気温	17.3	19.3	23.7	25.7	26.0	27.9	27.1	27.4	25.8	23.4	21.3	17.9
カトマンドゥ	最低気温	3.4	4.4	8.4	12.1	14.4	13.7	20.1	19.8	18.8	12.8	8.6	3.3
	降水量	0	27	13	89	165	336	364	323	321	65	7	59
ボカラ	最高気温	19.8	21.7	26.3	27.9	28.7	30.8	29.5	30.3	28.2	26.5	23.8	20.1
	最低気温	6.8	8.9	12.1	14.6	16.7	20.9	22.1	22.0	20.1	15.8	12.4	6.8
	降水量	1	47	64	191	159	726	768	574	1164	130	14	69

ネパール全図

○:都市
—:車道



インドと中国という二大国に挟まれたネパール王国は、南北に 1930 km、東西に 885 km 延びる横長の国。首都、カトマンズ。国土面積の三分の二が山々に覆われていて、北部のチベットとの間には地球の屋根、ヒマラヤ山脈が走る。熱帯、亜熱帯、温帯、亜寒帯、寒帯といろんな気候帯を持ち、一日の気温差も激しい。

言わずと知れたカトマンズは、ネパール王国の首都。五つの山に囲まれたカトマンズ盆地にある都市で、かつて 60 年代後半から 70 年代の半ばにかけて、ヒッピーのメッカとして、世界中の若者がここに訪れた。標高 1350 m の高さにあるが、気温は、一年を通して温暖である。

ネパール第二の都市でポカラは、観光名所も多いが、ここだけはカトマンズからは日帰りだけでは行けない。首都とは違い本当にのんびりできる町で、貸し自転車を借りてサイクリングも楽しめる。ここでの自然の美しさは

一見の価値がある。町の中心にあるペワ湖ではボートを貸してくれる。自分でボートをこぎながら湖の真ん中まで行き、手を止めるとアンナブルナが近くに見える。じっと見ていると、自分の方に迫ってくるような迫力がある。このペワ湖周辺がこの町の観光の中心になるが、本当にきれいでのんびりしているので、リゾート気分で訪れたいたい場所である。

ネバールの季節を大きく分けると、雨季と乾季である。6月中旬から9月半ばまでが雨季で、10月から5月までが乾季となる。ベスト・シーズンは雨季を避けた11月から2月の1ヶ月間。ヒマラヤの壮大な景色を目指して行くなら、冬休み、正月休みを利用して、この時期に行くのが、一番お薦め。ただし、正月は、ヒンズー教の固らしく、とっても静か。一番寒いのは12月から2月で、カトマンズあたりでも、夜には霜が降りるが、昼間は、セーターや一枚で充分過ごせるくらいの気温である。

< 歴史 >

奥村紀子

ネパール山地では珍しく谷が広く開け、気候もよいカトマンドゥ盆地には、2000年以上前から先住のネワール（ネワリ Newari）が定着していたらしい。

4世紀にリッチャヴィ王朝が成立、8世紀中頃から中世に入ると、各地のラージャ分立の中からマッハ王朝が台頭、15世紀にはカトマンドゥ盆地内に、マッラ王朝の3つの王国が並立してネワールを治めた。それぞれの首都であったカトマンドゥ・バクタプル・パタンではネワール文化が開花し、今に残る王朝の建築や伝統工芸もその時代に完成されたものである。

イスラム勢力に圧迫されてネパールの山地移動してきたインド出身のクシャトリアのうち、ゴルカ（カトマンドゥの西、ポカラへの道半ばの山地にある）を拠点とする一族が勢

力を増し、この豊かなカトマンドゥ盆地に侵入してこれを占拠し、ゴルカ王朝をたてた。

1769年のことでのこと、これが現国王の先祖である。全ネパールを統一したゴルカ王朝はチベット・インドへの進出を図るが、19世紀初めにインドから侵入したイギリス軍衝突し、撃退はしたが、領土はほぼ現代の国境線内に縮小した。

1846年からはラナ家による専制支配下で鎖国が続いていたが、1951年王政復古・開国した。不安定な政治が続いたあと、1960年に先代のマヘンドラ国王がクーデターを起こし、全権を握った。その跡を継いで、1975年に戴冠式を挙行したビレンドラ国王が現在も国王の座にあり、微妙な国際関係の中で国内の統一をはかっている。

< 政 治 >

國 方 奈 津 子

ラナ家による専制政治が1世紀に達しようとしていたころ、ラナ政権打破をめざす政治活動家は亡命先のインドで次々に政党を結成しはじめた。他方、王家の側では、1951年にトレヴァン国王が王政復古を果たし、ラナ家を政権から追放する。ついで55年に即位したマヘンドラ王は国連加盟など独自の外交を開いたが、国内では王権の強化をはかる国王と民主化を求める諸政党との亀裂が深まつた。

1959年の総選挙によって誕生したネパール会議派のB.P.コイラ内閣は土地改革などに着手したが、翌60年、マヘンドラ国王は内閣と議会の解散を断行。政党活動も禁止し、国王の翼賛組織である市町村から国レベルまでのパンチャヤット（評議会）をとうして統治する国王親政を敷いた。72年に即位した現ビレンドラ国王はこのパンチャヤット体制を継承したため、活動を禁止された政党は集会や暴動などを組織するいっぽう、議員になるなどして体制内部からの変革をめざした。

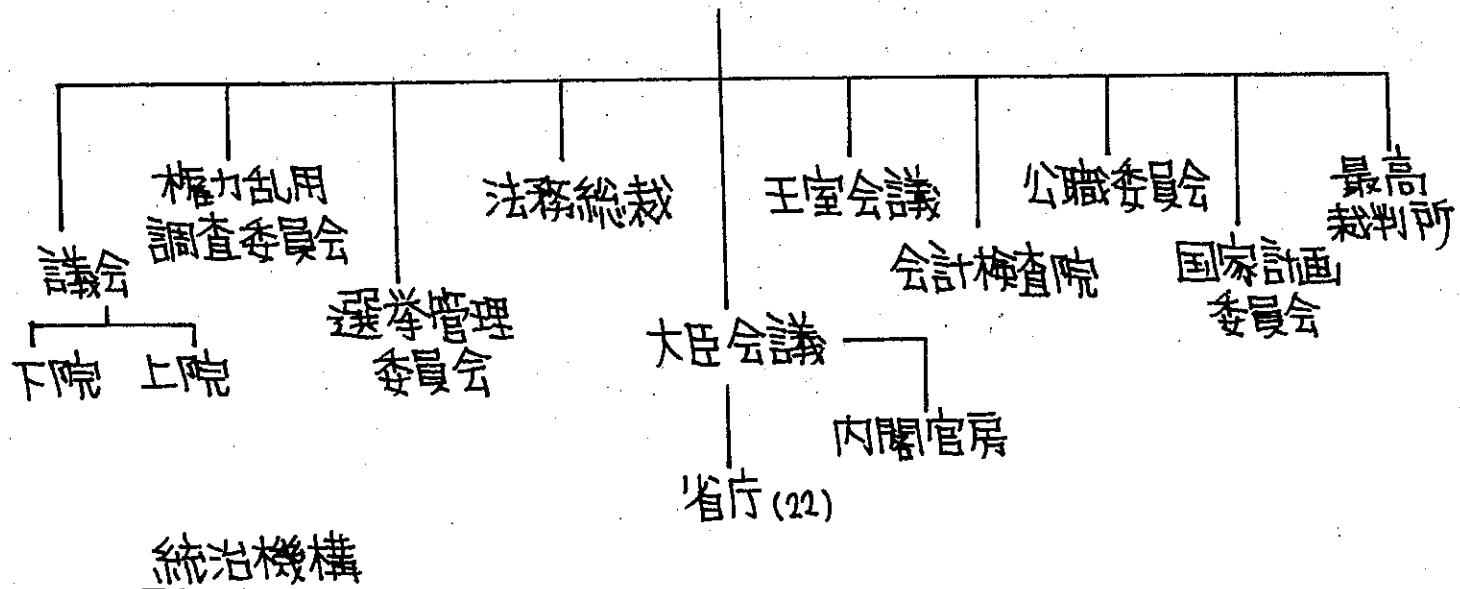
1989年、インドの経済封鎖によって国民生活が貧窮すると、ネパール会議派と共産各党はパンチャヤ

ット政権打倒の共闘を組み、国民の不満を吸収して反政府運動を活発化させる。政府が警察や軍を動員して鎮圧をくり返すほどデモの規模は拡大し、市民を巻き込んだ民主運動へと発展していった。

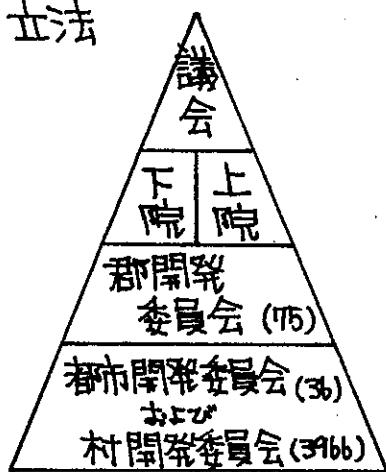
1990年4月、ビレンドラ国王はパンチャヤット体制を廃止し、議会制民主主義の実現を約束。会議派のバタフライが選挙管理内閣を組織し、11月に民主主義をうたった新憲法を発布。91年5月に民主憲法下で行われた初の総選挙では、ネパール会議派が過半数を獲得し、G.Pコイララが首相に就任した。しかし、党内部の実力者は派閥争いに追われ、民主化とともに關った統一共産党は政府を非難するデモをくり返す政治空白が続いた。その後もネパール会議派と統一共産党が交互に連立政権を樹立するなど不安定な政情が続き、この間、政争と汚職などの政治腐敗が深刻化し市民の政治離れが急速に進んでいる。

中央統治機構

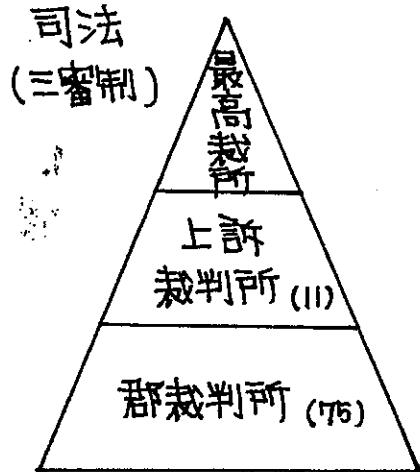
国王陛下



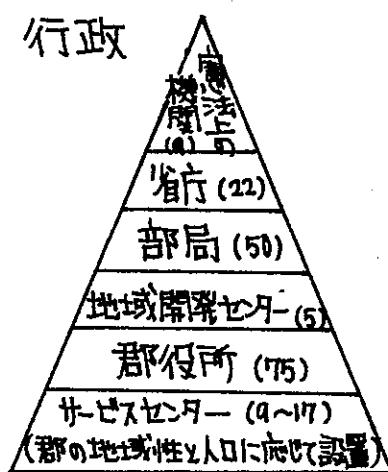
立法



司法
(三審制)



行政



立法部の機構

二院制

議会

下院 (205)
205選挙区から各1名

上院 (60)

国王による指名 10名
下院で選出 35名
(女性議員 3名以上)
地方自治体で選出 15名

委員会

議長 議長
副議長 副議長

ネパールの人々の言語はインド・ヨーロッパ語系とチベット・ビルマ語系の二つに分けられる。この言語分類に、文化的背景、伝統的居住地域などの要素を掛け合わせると5つのグループにまとめられる。それは人口の多い順に「バルバテ・ヒンドゥー」「北インド系南部低地民」「チベット・ビルマ語系山地民」「ネワール」「チベット系高地民」となる。

バルバテ・ヒンドゥー：バルバテ・ヒンドゥーはネパールの国語であるネパール語（インド・ヨーロッパ語系）を自分たちの言葉としてきた人たちである。彼らはインドから移動してきて初めネパールの西部に入り、今ではネパールの全土に広がっている。現在、彼らは国の人工の半分を占める多数派だが、その人工はいくつかのカーストに分けられている。そのカーストとは、バウン（司祭カースト）、チェットリ（王侯、軍人カースト）と不可触民のカミ（鍛冶屋カースト）、ダマイ（仕立てやカースト）、サルキ（皮職人カースト）がある。

北インド系南部低地民：北インド系南部低地民は、タライと呼ばれる南部低地に住むマイティリーリー語やボジュブリー語など、ネパール語以外の、インド・ヨーロッパ語系のグループである。多くがインドのガンジス平原出身で、その大半は、200～300年間に移住してきたといわれている。

チベット・ビルマ語系山地民：タマン、ライ、リンブー、グルン、チェバン、タカリ一などの民族がここに含まれる。彼らはチベット・ビルマ語系の諸言語を話す。それぞれの民族の伝統的居住地域は、タマンはカトマンズ周辺、ライとリンブーは東ネパール、グルンはボカラ周辺、マガールは中央ネパールのカリ・ガンダキ周辺、チェバンはカトマンズの西南、タカリ一は中央ネパールのタク・コーラ周辺である。ライ、リンブー、タカリ一はさらに標高の高い地帯に住んでいる。

ネワール：カトマンズ盆地に都市文明を築いてきたのがネワールと呼ばれる人たちで、チベット、ビルマ語族のネワール語を話す。彼らは30以上のカーストにわかれ、仏教徒とヒンズー教徒が混在している。

チベット系高地民：チベット・ビルマ語のうちチベット語の方言に相当する言葉を持ち、文化的にもチベット色が強いのがチベット系高地民である。伝統的居住地域もチベットに近接する標高3000m以上のネパール北部の高地で、宗教もチベット密教を信仰している。

ネパールの教育について

ネパールは、読み書きできることが一般的なことではなく、農村ではまだ「女性には教行くいらない」と言う意識が根強くのっこている。現在読み書きが出来る国民は、30%。1951年の識字率は約3%なので改善はされてきた。就学率について。

小学校への全国純就学率は男子80%、女子60%だが、農村部の就学率は下がる。1960年代の就学率は男子20%、女子3%だった。

男女別就学率

	男	女
小学校	132.7%	94.2%
中学校	58.9%	36.2%
高校	40.2%	22.4%

学校について。

ネパールは、小学校5年、中学校2年、高校3年、となっている。日本の様に義務教育はない。授業料は無償だが、中学、高校になると入・進学金が必要になる。

授業時間は、1日6時間、夏は午前10時～午後4時、

冬は午前6時～正午 Or 午前6時30～11:45

年間で約220日登校、うち75%以上の出席が必要。

進級、進学について。

ネパールの学校には進級試験があり、一年生では半分が試験に落ちてやり直す。小学1年生でも3才～12才ぐらいの子までいて年齢には幅がある。小学一年100人中最上級の5年まで上がるの30人程である。そのうち女子は1,2人。

いじめについて。

ネパールのすべての子供が学校に行かないので、日本の様に学校がすべてではない。日本では不登校で問題だがネパールでは「家事が手伝ってもらえる」と喜ぶ親もいる。カースト社会ネパールではアンタッチャブル（不可触民）と言う身分が低い子供が小さくなっていて、例えばカーストが高い子が水のみ場で水を飲んでいても、それを終わるまで待っている。ネパールにはいじめはない。

学校の種類について。

学校も公立と私立があり、私立では英語で授業を行ったり、コンピューター

に力を入れている学校もある。私立に通えるのは中流以上の限られた子供たちだけである。ネパールにも塾がありそれは、教師の質が低下しているため、それを補う為に通う子どももいる。塾に通えるの中流以上の子供である。

学校の建築について。

学校の校舎建築は国が行わず、村の建設で建てる。村の金持ちから寄付を募り、建築するケースがよく見られる。だが十分な資金が集まらないため粗末な学校が多い。

教師について。

ネパールでは教職は人気である。先生の月給は 2,500~3000 ルピー (5,000 ~6000 円)。10 年間教育を受けた人が先生になれる。(日本では高 1 相当)。農村部では現金収入を得られる職が少ないので教職は人気。採用試験でわいろをはらって教職を得ることが農村では行われている。

大学について。

大学への進学は、高校を卒業し、SLC と言うテストに合格すると大学に進学できる。ネパールには国立のトリブバン大学と私立のカトマンズ大学があり、キャンパスは 1 つだけでなく、地方都市に分校がいくつもある。

トリブバン大学は 5 学部 (人文科学、経営、教育、法、科学技術) 4 専門部 (医、農、林、工) および 4 研究所から成り立ち 1959 年に設立された。

カトマンズ大学は科学、工学、経営、教育学、の 4 学部がある中規模の大学。

生徒は高等中学校を卒業しても、外国の大学には入学資格がないので (多くの大学は入学までに 12 年間の学歴が必要)、国内の大学に行ななくとも 2 年間は在学しなければならない。

小・中・高等中学校あわせて全国で学校数は約 1 万 5000 校、教員は 7 万人ほどになっているが、学校といっても校舎のない青空教室もあるし、教員も兼業であったりして必ずしも常勤ではない。

ネパールの識字率は成人でも 40% といわれ、女子はわずか 25% しかない。女子の就学率の向上と成人教育も重要な課題だとか、ネパールでは良妻の評価は熟練労働者であることであって教育ではないので、女子の教育不要論が今でも深く根ざしている。

ネパールの宗教（ヒンドゥー教）

遠水亜沙子

民主化後の新憲法によって、ネパールはヒンドゥー王国と規定された。が、実際には仏教、イスラム教などを信仰している人もいる。仏教のなかでもヒンドゥー教の影響を強く受けたものと、山岳民族が信仰しているチベット仏教などがある。

ヒンドゥー教は現存する世界最古の宗教の一つであり、キリスト教とイスラム教に続く世界第3の宗教として、今日世界中に 6億 5400 万人の信徒を擁している。ヒンドゥー教徒の大多数がこの宗教が生まれたインドに住んでいる。約 80% 以上のヒンドゥー教徒がインドとネパールに住んでいて、残りの約 20% ほどのヒンドゥー教徒もアジアの国で生活している。ネパールの國でのヒンドゥー教、仏教、イスラム教といった宗教の対立は存在しない。仏教、儒教、道教、キリスト教、イスラム教や、その他世界の現存する大多数の宗教とはちがって、ヒンドゥー教には特定の開祖というものが存在せず、むしろそれは多くの宗教的信仰や哲學学派が一つに合流してできたものである。初期のヒンドゥー教は、西北インドのインダス河流域の宗教と、ヒンドゥーク・タジ江山脈を越えてペルシアからインドに侵入してきたアーリア人の宗教を一つに統合させてできあがった。その後、ヒンドゥー教は、偉大なヒンドゥー教聖の著作と解釈を通じてより堅固な基盤を育てていった。

ヒンドゥー教は、はじめから、その信徒が多数の神々を信ずる多神教の宗教であった。ヒンドゥー教の神々はその數数千と見てもいれば、小さな神々は無数に存在するが、実際にはヒンドゥー教の中心に、ただひとり真実の神〈ブラフマン Brahman〉が、名だけだと云う者もいる。ブラフマンは、唯一者、究極の实在、世界靈魂などとも呼ばれる。この解釈によれば、ヒンドゥー教のなかに伝統的に見いだされる多くの神々は、実際にはブラフマンの一部となして、いる。

ヒンドゥー教を構成していくのは 3 つの主要な宗派であるが、それらは神、宇宙、人間の状態などについてのたゞかに異なった觀念に基づいている。3 つの宗派は、シヴァ Śiva、ヴィッシュヌ VISHNU、シャクティ ŚAKTI の 3 大神に代表されるところから、それぞれ、シヴァ派、ヴィッシュヌ派、シャクティ派と呼ばれて、いるが、これらは、それぞれの信仰を通じてたゞかに縁やかに結ばれて、いる。

『ネパール 神々が宿る国』

福田 いほ

ネパールの伝統文化を知るためにには、ネパールで古代から信仰されてきている神仏のことも知る必要がある。なぜなら仏教とヒンズ教の思想を基本とする立派な伝統文化が築き上られていると考えるからだ。カトマンズ盆地を初めとしネパールは「生きた博物館」としてよく知られている。ネパールの建築物、人々の生活自体が博物館そのものである。中でも、仏教やヒンズ教の思想を基本とし建立された古い寺院、旧王宮、その広場がネパールの伝統的な建築技術の粹を集めている。街を歩けば、至る所に寺、仏像、チーバーあるいはストゥバー（塔）がどんなに小さな路地の奥にも見られ、溢れるばかりの花が供えられて線香が立ち上っている。人々の祈る姿はたえることがない。彼らにとって神や仏というものはいたるところに存在する。ただの石でも信仰さえあれば神や仏として供養する。また人々は競って仏像を装飾するために金属細工を施し、彫刻などをする。これはネパールの立派な文化遺産として数多く残され、土着文化の長い歴史を感じる。

ネパール人とはとても信仰深い国民である。そのことがネパール人の名前の多くは神仏（仏教やヒンズ教の神や仏のこと）名前から名付けられることからも明らかであろう。それは親が自分の子供たちが神や仏のように立派になるように、と願うからであろう。

ラーマ (Ram) 、シャーム (Shayam) 、インドラ (Indra) , ビシュヌ (Vishnu) 、
ハリ (Hari) , シター (Sita) 、ラクシミ (Laxmi) 、シダルタ (Siddhartha) 、
ブッダ (Buddha) 、ターラー (Tara) 等は神々の名前である。これらの名前はそのまま人名として使っている。しかしそのような傾向は最近だんだんとなくなりもっと現代的名前を好む。

ここではネパールで古代から信仰されてきた神々、仏菩薩について紹介していきたい。

今回は、仏教の中心的な仏である五仏 (Panca-buddha) についてふれてみたい。ネパールで五仏を安置しているお寺はカトマンズのスワヤンブ（目玉寺とも呼ぶ）が代表的である。その他に、中庭などで建立されているチーバーと言う石の仏塔が多くある。五仏とは五人の仏達のグループのことである。これらは次の通りである。

(1) 大日如来 (だいにちによらい) (Vairocana)

大日如来はサンスクリット語で、ヴァイローチャ (Vairocana) と言い、毘盧遮那 (びるしゃな) はこの語の音写である。意味はよく輝く光、である。この仏を色彩で現すと白であり、透明な太陽の光のようである。またヴァイローチャは知恵の象徴でもある。よって昼間、太陽の光が人々を照らす以上に、この仏の光は昼夜を問わず、人間の無知を照らし出し、温め、苦しみから解き放つのである。

ヴァイローチャは五仏の中央に安置され、絵画として描く時も中央である。そのためチーバーなどでは立体であるためこの仏の姿は現せない。しかし、スワヤンブストゥーパのような大きな仏塔には阿しゅく如来 (Aksobhya) と宝生如来 (Ratnasambhava) の間に安置されている。同じ仏が後期密教の曼荼羅ではこの位置が阿しゅくに交代されている。

大日如来の印、すなわち両手のかたちは智拳印（ちけんいん）（左手の人さし指を立てて右手でこれを握っている形）、または説法印（両手の親指と人さし指の指頭を着けてほかの3本の指は散じて伸ばしている形）を結んでいる。ネパールやチベットに存在する大日如来はほとんどが説法印を結んでいて、智拳印はすくない。一方、日本に存在する密教系統の仏像や仏画の大日如来はほとんど智拳印（ちけんいん）である。乗り物は獅子である。

大分県の臼杵市深田にある石仏の中で大日如来の仏像があり、国宝となっている。その他にも、奈良の大仏は毘盧遮那仏として有名である。

(2) 阿しゅく如来(あしゅくによらい) (Aksobhya)

阿しゅくはサンスクリット語で、アクソビア (Aksobhya) の音写である。アクソビアとは不動、或いは、動搖されない、という意味である。

阿しゅくは五仏の中で東に安置されるが、単独に奉る場合もある。色彩で現すと青である。青は怒りを象徴するが、この仏の怒りは衆生に襲い掛かる転変地獄、疫病、煩惱といった魔に対する怒りである。つまり、この仏は一切衆生の平和と安穏を願っているのである。

阿しゅく如来の印は、触地印（しょくちいん）である。触地印とは坐像の場合、右手は膝から下ろし、大地に触れ、左手は膝元に手のひらを上に向けて置く。これはお釈迦様が悟りをひらいたとき、悪魔の誘惑から逃れるために結んだ印でもある。乗り物は象である。ネパールではこのような印を結んでいる仏が多く見られる。スワヤンブストゥーパに上る際に、両脇に座する石像はこのアクソビアである。

(3) 宝生如来 (ほうしょうによらい) (Ratnasambhava)

宝生如来はサンスクリット語で、ラトナサンバーバ (Ratnasambhava) と言う。宝生はサンスクリット語に対する意訳であり、宝を生ずるという意味である。この宝は宝石や金のことではなく、衆生にそれぞれ備わる長所や価値のことである。つまり宝を生ずるというのは人がよりよく住むために必要な価値観の創造である。

宝生は五仏の中で南に安置される。色彩で現すと黄である。人間の体の色を表すとされる黄は宝の象徴である。この仏の役目は願いをかなえることである。

宝生如来の印は、与願印（よがんいん）である。与願印とは、左手が阿シュク如来と同じように手のひらを上に向けて置き、右手もまた阿シュク如来と同じく膝から下に降ろしているが、手のひらを向いている。乗り物は馬である。

(4) 阿弥陀如来 (あみだによらい) (Amitabha/Amitayus)

阿弥陀如来はサンスクリット語で、アミターバ (Amitabha) と言う。阿弥陀はサンスクリット語に対する意訳である。Amitaは無量、abhaは光である。よって無量光としても知られる。つまり知恵の光であり、徳の光である。またこの仏はアミタユス

(Amitayus)とも言う。Amitaは無量、ayusは寿命である。よって無量寿と意訳される。つまり無量の寿命を持っているのである。一般的には、無量光、無量寿として区別せず、阿弥陀如来という名で親しまれている。

阿弥陀は西に安置される。色彩で現すと赤である。赤は燃える火の色であり、すなわち、衆生を救済しようとする情熱に燃えているのである。この仏は慈悲の象徴である。

阿弥陀如来の印は、禪定印（ぜんじょういん）である。禪定印とは、坐像の場合、左手のひらの上に右手の甲を重ねて膝元に置いている。しかし、日本に伝わっている阿弥陀如来は禪定印とともに説法印の姿も見られる。更には右手は施無畏印、左手は与願印を結ぶ像が作られている。乗り物は孔雀である。阿弥陀如来はネパール、日本の両国ともに広く信仰されている。特に日本の浄土系の寺では阿弥陀如来の単独尊が多い。ネパールでは、単独尊としてよりもチーバーに安置されている阿弥陀のほうが多い。

(5) 不空成就如来(ふくうじょうじゅにようらい)(Amoghasiddhi)

不空成就是サンスクリット語で、アモガシッヂ(Amoghasiddhi)という。不空成就是サンスクリット語に対する意訳である。Amoghaは確実、siddhiは成し遂げるという意味である。物事を確実にやり遂げるための力を与えてくれる仏である。

不空成就是北に安置される。色彩で現すと緑である。緑は安心感を与え、行動力を現す色である。一般的にも緑は許可を現す色であるから、この仏の働きは前進を促すことである。乗り物はガルーダである。これは空想上の鳥である。

不空成就如来の印は、施無畏印（せむいいん）であり、それは坐像の場合、左手は不空成就と阿門と同じく膝元の上に置き、右手は親指と人さし指の指頭を着けてほかの3本の指を散じて伸ばしている形である。修行を成就させるために力を与える仏である。不空成就如来の姿には七つの頭を持つナーガが如来の上に覆い被さるようにしてひさしを作っているものがある。ネパールでは、雨水に困っているときこの仏に祈願することもある。このように五仏はネパールでも日本でも古くから信仰されている。例えば日本で五仏を奉っている寺は和歌山の高野山、京都の東寺などである。ネパールでは前述したように街の至る所でみられ、庶民の家の門構えにも仏画として装飾が施されている。そこに描かれた五仏の順番は右から不空成就如来、阿弥陀如来、大日如来、阿しゅく如来、そして宝生如来である。またタンカ、或いは曼荼羅における五仏は色によって区別される。

ネパールへ旅をした折りには日本とネパールにおける五仏の比較をしてみるのも面白いのではないだろうか。

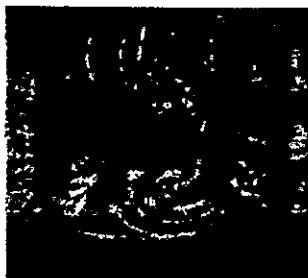
『ネパールの祝祭日（6月～9月）』

6月19日 チャンディ・バグバティ・ヤトラ (バクタプール)

バクタプールのチャンディ寺院の仏の御輿を担いで市内を回る。

7月16日 ナーガ・パンチャミ (全国)

雨をもたらす蛇の神様の日。ヒンズー教徒は悪霊が入らないように戸口に蛇の絵(下の絵)を張る。



8月11日 日食

8月12日～9月10日 グンラ ダルマ (スワヤンブナート)

ブッダへの敬けんな祈りの月。一ヶ月間スワヤンブナートでお祭りが続く、この間毎日スワヤンブナートへ向かう人々や楽隊を見ることができる。
行事の一つとして、たくさんの仏像や仏画が展示される。

8月26日 パタン・クンメショーラ・メラ (パタン)

ヒンドゥー教徒が手首につけたお守りの糸を付け替える日。
この日このお寺に恋人同士でお参りに行くと2人はうまくいくといわれている。
ネワールは、この日クワティ(Kwati)と言う9種類の豆のスープを作つて食べる。

8月26日 ジャナイ・プニ (全国)

ヒンズー教の聖地の一つであるゴサインクンド(ランタンの近く：標高約4000m)にお参りに行く。

8月27日 ガイジャトラ(牛祭り) (カトマンドゥ盆地) (下の写真)

パレード。バドガオン(バクタプール)が一番おもしろい。

ヒンズー教のお祭り。

前の年に亡くなった人がいる家族や親戚が集まり、
町の中を歩いて回る。

そのときに牛を引いてしたり、仮装する。



月20日 パタン・マタヤ(パタン)

パタンのストゥーパの仏像を巡礼する日で、いつも見られない仏像が見られる。

みんなで思い思いの格好で仮装し、仏教のお寺を回るパレード。とても賑やかで楽しい。

月 2日 クリシュナスタミ(パタン)

クリシュナ誕生日

パタンのクリシュナ・マンディールでは、夜灯明で照らされ、大勢の人でにぎわう。

月 4日 ピマヤトラ(パタン)

夜、商売の神様の御神輿を担いで、市内を回る。

月 9日 父の日(全国:ゴカルナ) Babuko Mukh Herne

父親がいない人は、ゴカルナでお祭をする。

月11~14日 ティーズ(女性の休日;全国:バシュバティナーート)

ヒンズー教の女性の日。14日の最後の日は、シヴァのお寺バシュバティナーートはこの日、集まった女性たちのまとった赤いサリーで深紅に染まる。

女性たちは民俗音楽に合わせて歌い、踊り、ごちそうを食べ、賑やかに過ごす。



月24日~約1週間 インドラジャトラ(カトマンドゥ)

祭りの3日間は、クマリの山車が町を行き、ヴィシュヌ神の十変化の見せ物や、山から出てくるラケーという鬼、バイラーヴ神の大小の面の御開帳などなど、見るものがいっぱい。



《 ネパール 食事情 》

竹口 利香

インドのすぐ北に位置しているにもかかわらず、ネパールの食生活はインドのものとは大きく異なる。ネパールの人々の一般的な食事といえば、ダルバードと呼ばれる豆のスープ（ダル）と米飯（バード）に、塩煮の野菜（タルカリ）、大根と唐辛子の酢漬（アチャール）がセットになったものが基本である。ダルの味付けにはニンニクと塩が使われており、インド料理のようなスパイシーさは無い。大きめの丸皿（金属製が主流である）に、一緒に盛り付けられて出てくるが、味に慣れれば見た目よりはおいしく思えるかもしれない。みんなが避けたがるダルも勇気を出して一口食べてみよう。私はそんなに嫌いでない。

主食は炊いた米だが、大麦を茶と水あるいは牛乳で炊いたツァンパや、チウラという粉がついたままの蒸し米を白でついて乾燥させた干飯のようなものも携帯食として食べられている。

米のとれない高地に住むシェルバ族やチベッタンの常食は、ソバやコード（ヒエ）、とうもろこしの粉を団子状にして煮込み、スープにつけて食べるディーロである。このほかには、シャクパと呼ばれるぞうすい、練った小麦粉を焼いたチャパティ、揚げパン、すりおろしたじゃがいもを焼き、唐辛子とニンニクと塩にチーズをまぶしたアルコ・ロティなども山岳でよくみられる。

一日の始まりは朝食代わりのチャ（チャイ）である。チャとは、鍋で少しの水とたっぷりの牛乳で作ったミルクティーのことで、ほぼ例外なく砂糖入りで甘い。一日二食が普通で、10時～11時頃にブランチをとり、17時～18時頃に夕食をとる。

知ってる限り、ヒンドゥー教の牛崇拜と牛保護の習慣から、牛肉は食べない。牛肉だけでなく、肉そのものを食べない菜食主義者も多い。マトンやチキンは、よくカレーの具に使われ、我々が食事をするレストランでは、水牛（バブ／バッフ）の肉も食べることができる。店によっては、「real beef」と書かれたメニューを目にするかもしれない。

ホームステイ用に知っておきたい食事のマナーとして、ネパールの人々は右手指のみを使って食べ、食事の前後には手を洗い、口をすすぐ。排泄後の処理をする左手は不浄の手とされているので、タバコを吸うにも右手であるし、人に物を渡したり、仏像を触ったり、子どもの頭をなでるのも右手である。とは言っても、我々にはスプーンやフォークを用意してくれるだろうから心配は要らないが、床に皿を並べ、あぐらをかいて食べるネパール・スタイルに完全に染まってみるのもいいものである。

実際にネパールに行ってからよく食べと思われるメニューは、ほとんどがチベット料理かネパール風の中華料理である。私の個人的に好きなチョウメン（焼きそば）やモモ（ギョウザと言われているがどう考えても肉まん）も、チベット料理である。その他、トゥパーという汁そば、ギャコックという寄せ鍋らしきものや、上記したツァンパもチベット料理である。とにかくレストランのメニューは豊富で、インド料理や西欧料理を扱う店や、日本料理屋も結構あるので、どんどん開拓していってもらいたい。ただし、珍しいからと

いって、スパゲティーやブッディングには手を出さない方がいいと、アドバイスしておく。

飲み物は、ミネラルウォーター・チャ以外には、コカ・コーラ系やペプシ・コーラ系の清涼飲料水もあり、成人用にはビールもなかなかの味らしく、有名なのは「L e o」と「S t a r」という銘柄のようだ。大抵のレストランではこの他に、ラッシーというヨーグルトのジュースも置いてあり、プレーンからバナナ、マンゴー、パパイヤなどフルーツを加えたものもあっておいしい。

また、最近ではインスタントラーメンが普及し、売店でもよく見かける。味もおいしく、チキン風味やベジタブル風味などがある。作り方も鍋で乾燥麺を煮て、粉末スープを入れるだけと、簡単で、しかも安い。昼食に自炊するなら、一度試してみてはいかがだろう。

お土産にお勧めするのは、チャの葉っぱ。まさかティーパックにはなってないと思うが、小さい箱で売っているし、また安く、自宅で簡単に作れるので人にあげるのもいい。逆に慎重に選ばなければいけないのが、おかし類だ。当たりはずれが大きいので、まずは現地で試食してからの方がよい。

さて、pool版ネパールガイドとやらになると個人的思い込みも入れつつ、長々と述べてみたが、人によっては味覚もちがう訳で、参考になるのか怪しいものだ。本も数冊めくってみたが、載っている習慣が全てのネパール人に当てはまるとはないとも思う。だから実際にやって、確かめたくなるのだ。結局は、自分で見たり、聞いたり、触ったり、食べたりと、経験しないと分からぬと思う。それに、こういう機会もなかなか無いし、せっかく行くのだから、好奇心を旺盛にして何でもやってみたいと思っている。

§ 参考文献 §

マーヴィン・ハリス 1988年 『食と文化の謎』 板橋作美 訳 東京 岩波書店

1986年 『もっと知りたいネパール』 石井薄 編 東京 弘文堂

1998年 『ネパール ヒマラヤ・トレッキング ブルーガイド・ワールド』
ブルーガイド海外出版部 編 東京 実業之日本社

武井義明 1993年 『ハンディガイド36 インド・ネパール』 オフィス201 編
東京 近畿日本ツーリスト

内田良平 1992年 『カトマンズ百景』 東京 山と渓谷社

第3回 ネパール野球紹介活動 活動報告書

2000年9月3日～2000年9月24日

プール学院大学

野球を広める会

第3回 ネパール野球紹介活動 活動報告

プール学院大学ネパール野球紹介活動グループ

皆様と共に続けて参りましたこの活動も、無事2年目を迎えることができました。皆様の多大なる温かいご協力を賜りまして誠にありがとうございました。この活動をさせていただけるのも皆様のご支援があればこそだと日々感謝し、活動させて頂いております。これからもネパールの人々へ野球の楽しさを伝えていくため、この活動を続けていきたいと考えておりますのでご協力下さいますようどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、今年も9月3日から9月24日まで、ネパールのポカラにおいて活動を行ってまいりましたのでご報告させていただきます。

第3回 ネパール野球紹介活動

期間：2000年9月3日～9月24日（現地での活動は6日～19日）

参加者：
指導係 4名（プール学院大学院生1名、プール学院大学生2名、摂南大学生1名）
マネージャー 2名（プール学院大学生）
書記係 2名（プール学院大学生1名、プール学院短大卒業生1名）
記録係 1名（プール学院短大卒業生）
ネパール語通訳係 1名（ネパール人の通訳者）

今回で3回目の訪問となるポカラ市にあるアマ・シンセカンドリースクールの生徒約20名に、野球を楽しむために必要な基本ルールを完全に理解してもらえることを第一目標として活動して参りました。

具体的な目的は以下の通りです。

- ① 細かい野球のルール説明
- ② ポカラ市のスポーツ委員会への野球紹介活動支援協力の依頼
- ③ 日常の練習方法の紹介、説明及び指導
- ④ 日本のプロ野球、高校野球をビデオで紹介、説明
- ⑤ 子供たちとの交流（サッカー）
- ⑥ 木製のトンボ（土をならすための道具）をプレゼントするとともに、作り方の説明、使い方の説明



ご 報 告

本当のところは日本出発前、私たちが野球を教えている子ども達は果たして野球を続けてくれているのか不安でした。しかし、セカンダリースクールのグランドを見たとたん不安は一気に解消されました。彼らが守る各ポジションの部分だけ草が生えていなかったのです。また、子ども達の練習の成果を見せてもらっても確実に上達していて、なかには日本の中学生に負けない程の技術をもった選手まで現れるようになっていました。メンバーこそ数名変わっていましたが、以前にも増して野球をしたい、という意欲のある子ども達が集まって、より一層活気が伝わってきました。

現地で活動を行った日程は後の「ポカラでのスケジュール」でご覧下さい。

私達が日本を出発する以前に挙げておりました6つの目的に対する成果は次の通りです。

まず①の「細かい野球のルール説明」について。

半年の間現地で指導していなかったこともありルールの解釈を誤っている部分が多く、特にフライを打上げたときのタッチアップ、一塁ベースの走り抜けに関しては理解してもらうのに苦労しました。それでも、10日後位になると野球の試合に必要なルールは、ほぼ全て理解していました。また、各ポジションのカバー、外野にボールが飛んだときに対する内野の中継プレーなどについても説明しました。

次に②の目標「ポカラ市のスポーツ委員会への野球紹介活動支援協力の依頼」について。

スポーツ委員会の方々と直接に話はできませんでしたが、地元NGO (ESODEC) の協力のおかげで、ポカラ市の市長と面談をすることができました。その結果、ポカラ市を拠点とした野球球技の普及に対する協力の依頼に対し、市長からは、「ネパールに野球が広まることは喜ばしいことだ」との返答を頂きました。

③の目標「練習方法の紹介、説明及び指導」について。

具体的には、ティーバッティングセットによる打撃、壁にストライクゾーンを描いて投げる投球、牽制球に対するリード及び帰塁、盗塁、ベースランニング、ノックによる内外野の守備などの練習を行いました。また、スライディングの種類の説明及び練習も行いました。子供たちは自分のユニフォームを汚しながらこの練習に大変喜んでおりました。

次に④「日本のプロ野球、高校野球をビデオで紹介、説明」について。

これは雨が降った日を利用して行いました。あらかじめ日本からビデオテープを用意いたしました。しかし、現地のビデオデッキとの調節が上手くいかず、画像が不鮮明でした。そんな中でも子供たちは熱心に見入って、いくつかのプレーに対して熱心に質問をしてきました。

⑤の目標「子供たちと交流を深める（サッカーをする）」について。

ある1日のことです。野球の練習開始直後、にわか雨が降ってきたのです。私たちはボールを握る手が滑って野球ができるないと判断し、子供たちに「ボールが滑ってまとまに投げられないからサッカーでもしよう！」と伝えました。するとほとんど全ての子ども達から、「サッカーよりも野球がしたい！」という答えが返ってきました。そこで、私達はサッカーを中止しそのまま野球を続けました。

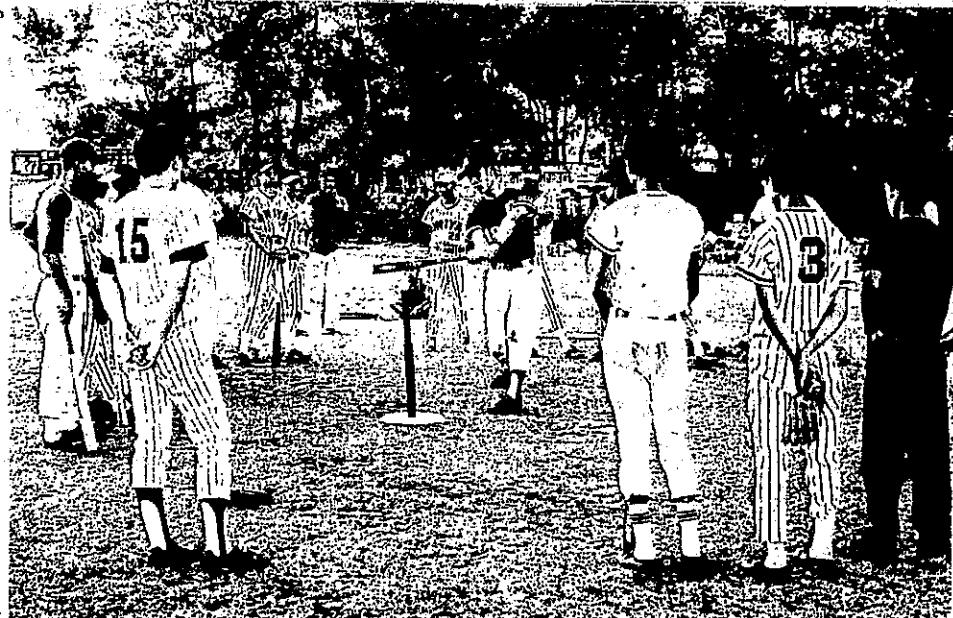
⑥の目標「木製のトンボをプレゼントとともに作り方の説明、使い方の説明を行う」について。

日本からあらかじめトンボ作り用のサイズに切断した木材を持参し、子供たち先生方にトンボの説明をした後、全員で釘を打って作成しました。今回は6セット分の木材を用意しました。理由としては、野球はトンボ



がないとできないスポーツだと思われてはいけないと判断したからです。

その他子供たちのなかに筋肉痛・すり傷等はありましたが、指導者とともに大きなケガをした者もなく無事活動を終了しました。



感想

今回の活動で一番感じたことは、ほとんどの子供たちが心から野球を楽しんでいるということです。今回の活動には私たちも何度か混じって対抗試合をしましたが、みんな生き生きとプレーし、勝ったチームは喜び、負けたチームは本当に悔しそうでした。なかには「納得がいかない」と再試合を申し出る子供達もいました。また、報告の部分で述べましたが、現在交流している子供たちがネパールで1番人気のあるサッカーより野球を選んでくれたことは、何よりも野球を楽しんでいる証であり、私たちの喜びでもありました。

この活動をしておりますと、私たちにも忘れていた野球本来の魅力というものを改めて教えられます。③の報告で述べましたように、子供たちがスライディングでユニフォームの汚れた部分を自慢しあったり、プロ野球選手の好プレーシーンを観て真似をしたり、ジャンピングキャッチをしてみたり。野球の原点を思い出させてもらいました。

しかし、活動を行っていくなかで問題も数多くあります。グランドにはフェンスがないのでエラーをした時はボールがどこまでも転がっていきます。そこで、やむを得ずエンタイトルツーベースにしなければなりません。また、ホームランも同様いくら遠くに打ってもどこからがホームランゾーンかが分かりにくいのです。これらはこれからさらなる野球の発展の障害となっています。「野球場が一つあればルールをより分かり易く説明できるのに」といった会話は私たちの中でよく耳にしました。

また、資金不足も悩みの種です。野球道具に関してはアマ・シンセカンダリースクールの先生方に自分で作ってもらえるようにとの依頼をしています。けれども、現状では資金不足等からなかなか進んでいません。

現在、私達が直接指導している子供たち以外にも「野球を教えて欲しい」と言ってくる子供たちは沢山います。この活動も当初は、野球というスポーツがネパールの人たちに受け入れられるか半信半疑でした。それから1年が経った現在、ネパールで野球が広められていく手応えを改めて感じました。

まだまだ未熟な野球紹介活動にもかかわらず、ここまで沢山の方々からご協力いただきまして熱くお礼申し上げます。そしてこれからも、野球をしたいという子供たちがいる限り、活動を続けていきたいと考えていますのでご指導・ご協力下さいますようお願い申し上げます。

報告者： 赤松 弘章

ネパール野球交流活動メンバー インタビュー



赤松 弘章 (23) ブール学院大学大学院 趣味：自転車 家庭菜園

今回の活動を終え、子供達が野球を楽しんでいる姿を見て、改めて野球が広がっていくような手応えを感じました。また、この活動に参加した者全員が共に楽しんでいた姿はとても強く印象に残っています。そして私自身、この活動を通して野球の本当の面白さ、そして国境を超えたスポーツの素晴らしさを知りました。ここまでやってこられたのも皆様のおかげだとつくづく感謝しております。



花倉 雄宇也 (22) ブール学院大学 趣味：釣り ババ抜き

今回の活動も、子供達の成長が目に見えて分かったのでとてもよかったです。強い弱いに関係なく、とても真剣で楽しく野球をしている子供達の顔が僕らを楽しくさせ、これからも続けなければ、と思わせてくれました。子供たちの笑顔が皆様にお見せすることができなくてとても残念です。ネパール野球はこれからも続いていきます。目指せ！！オリンピック！！



園田 健弥 (21) ブール学院大学(初参加) 趣味：祭り事(だんじり)

今回の活動が初参加になるのですが、自分自身とても素晴らしい経験をし、少しでも自分が成長したように思えます。子供達も素直でのみ込みが早く、教えている僕たちがもっと勉強しなければ、と子供達から教わるくらいでした。このグループをもっと大きく素晴らしいグループにして行きたいので僕自身も頑張ります！！



向井 秀之 (21) 摂南大学(初参加) 趣味：やぐら 太鼓

初めての参加でしたが、いくらお金を払ってもできないような経験をしたと思います。子供達から笑顔や元気をもらい、僕達も負けずに元気にプレー、指導が出来ました。皆様のご協力やお気持ちが子供達に届いていたので大変嬉しく思っています。これからもこの活動を続けていきたいです。夢はネパールの街中で子供達が野球をしていることです。これからも頑張ります！！



新道 真理 (22) ブール学院大学 趣味：スポーツ観戦

昨年に引き続き2回目の参加ですが、やはり一番の心配は子供達が続けてくれているかどうかでした。しかし、元気よくプレーしている子供達みて安心し、感動しました。親しくなりすぎて注意を怠ったので次の行動が遅くなつたのが今回の反省すべきところだと思います。子供達の笑顔を絶やさないよう頑張っていますのでこれからもご協力の方よろしくお願ひいたします。



田島 明子 (22) ブール学院大学 趣味：映画鑑賞

子供達が練習して楽しく野球をしていたことが非常に嬉しかったです。一生懸命な姿に感動しました。説明することはとても難しいことなのに、子供達が素直な気持ちで必死に理解しようとする姿が見えたのでとてもやりがいがありました。しかし、薬関係の知識不足では悩まされました。野球がネパールの国民的スポーツになるくらいに広めていきたいのがんばります！！



宮田 春香 (21) ブール学院短期大学卒業生(初参加) 趣味：ネパールダンス

最初は自分自身が野球を知らないで何も分からずの状況でのスタートでしたが、記録という仕事を任されて、真剣に打ち込んでいく内に子供達とのコミュニケーションができる楽しくなってきました。しかししながら、自分たちが作り上げていく活動なのでやりがいがあった反面、責任も大きいことを実感しました。この活動は大変魅力ある活動だと思います。これからも続けます！！



桂田 葉名 (21) 関西大学(初参加) 趣味：カメラ オセロ

子供達の笑顔と一生懸命さに感動しました。通訳に関する点では、ネパールに野球がないということもあって野球を知っている通訳の方がいなかつたので苦労しました。

ネパールで子供達が学校の休み時間でも手軽に野球が出来るように身近なスポーツになって欲しいのでこれからも頑張りたいと思います。皆様もこれからのご協力よろしくお願いします。



巣 一季 (19) ブール学院大学 趣味：料理

私は、今回現地での活動は出来なかったのですが、私なりに日本での準備活動では精一杯頑張ったと思います。それがネパールで活かされたと聞いているので大変嬉しいです。日本で野球が親しまれているように、ネパールでも誰もが知っているスポーツであり、誰もが楽しめるスポーツにしていきたいと思っています。今回は行けなかったので次回は是非行きたいです！

ありがとうございました！

子どもたちの声

ローションくん（キャッチャー）



- ① キャッチング、バッティング
がおもしろい。
- ② 自分のわかる限りのことは
野球の事を説明してあげる。
みんなに広めたい。
- ③ ありがとうございます。

プロイヤスくん（ピッチャー）



- ① ピッチングがおもしろい。
ストライクを取ったとき。
- ② 最初はポカラ全体に広めて、
あとはネパール全体に
広めたい。
- ③ 初めてグローブをもらった時、
とてもうれしかったです。
大切にしています。

ビクラムくん（センター）



- ① カバープレイをした時、チームが
アウトを取った時が楽しい。
- ② 自分達でポカラからネパール全体に
野球を広めたい。
- ③ 協力してくれている日本のチームの
方々も強くなる事を祈ります。

質問内容

- ① 野球のどういう所が面白いですか。
- ② 将来、野球をどうしていきたいですか。
- ③ 協力してくれている日本の方々に一言。

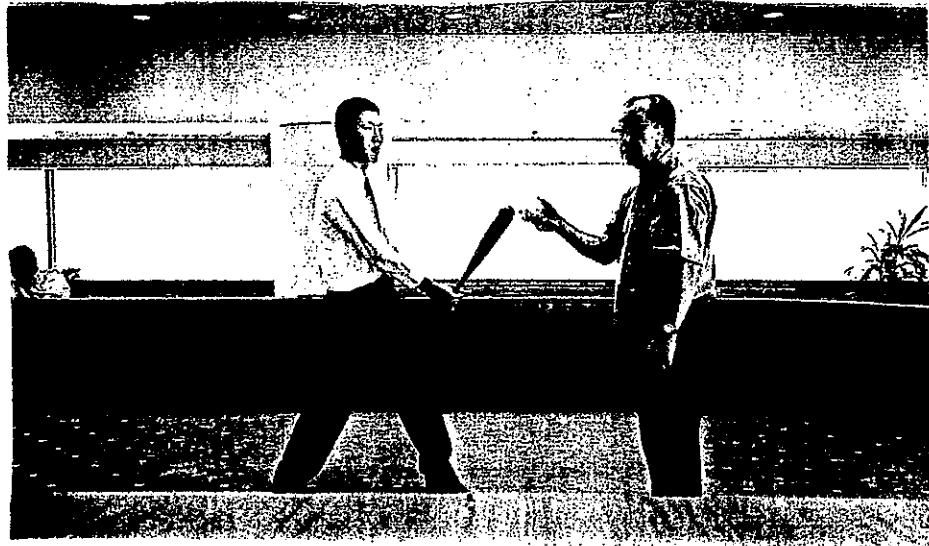
ポカラ市長のお話の内容

- ・ ポカラ市は観光・健康・みどりをスローガンに掲げている
- ・ ネパールは乳幼児死亡率が最も低い
- ・ ポカラ市と日本の交流は以前から活発的に行われている
- ・ ポカラ市の発展には、国民・NGOの関係を深くしなければならない
- ・ 日本とは地理的には離れているが似ているところ（気遣いなど）が多くあると思う
- ・ ポカラ市に協力したいというところには、いつも受け入れたいと考えている
お互いに交流を続けて深めていきたいと思う



元阪神タイガース監督 吉田義男さん 元阪神タイガース選手 室山皓之助さん
にご協力いただきました。

2000年8月10日に元阪神タイガース監督吉田義男さん、元阪神タイガース室山皓之助さんから私たちに「野球の指導方法」についてお話を聞いて頂きました。吉田さん室山さんはフランスで野球を指導されておられ、そこで得た経験のお話しも聞かせていただきました。



お話を内容（一部）

- ・指導するときは絶えず選手の立場に立って考える。
- ・長い目で指導していくことが大切である。
- ・子供たちがいかに興味を持って取り組んでくれるかを絶えず考えて指導する。
- ・物事を教えるときは直接指導するのではなく、ヒントを与え自分たちのなかで考えさせて興味を持たせること。
- ・子供たちは、誉めることによって意思を伝える、あるいは表現を持つことが大切である。
- ・フランスで指導していたときは、チームのために戦うという精神を教え込むのに特に苦労した。

また、第3回野球紹介活動におきまして野球道具のご協力を頂きました。誠にありがとうございました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

今後の活動予定

来年2001年の2月頃に第4回目になる現地ポカラでの活動を予定しています。今まで交流活動を続けてまいりましたアマ・シンセカンダリースクールに、野球ルールの理解に対する再確認を行う予定です。

そして、直後の2001年4月からは、ポカラへ日本から1年間駐在員を派遣する予定で進めております。その時には、ポカラ市内を中心にアマ・シンセカンダリースクールの生徒と共に他の学校に野球を広げる活動を行い、4校から8校ぐらいの野球チームを誕生できることを目標にしております。チームが誕生しましたら、ネパールで最初のリーグ戦をしたいと考えています。その間も定期的に日本から野球紹介活動グループがポカラへ向かい活動します。また、引き続き野球道具も支援していきたいと考えています。そして、いつの日いか、皆さんの手でネパールで最初の野球場をプレゼントできるときが来るのを夢見ております。

これからもご協力どうぞよろしくお願い致します。

私達と共に活動をしていただける方がおられましたら御一報頂ければ幸いです。

2000年度第3回ネパール野球紹介活動収支報告

第3回ネパール野球紹介活動で集められた資金につきまして、報告させていただきます。今回は援助の方法を慎重に考えていきたいということから野球道具の購入は少量に抑えさせていただきました。

収入の部		支出の部	
募金 (6月3日)	9,622	野球道具購入費	19,590
" (7月11日)	28,832	募金活動雑費	33,803
" (8月6日)	44,649	雑費	1,800
寄付	81,000		
前回の繰越金	9,600	次回への繰越金	118,500
収入の部合計	164,103	支出の部合計	55,193

●第3回目の活動でネパールへ持つて行ったもの

今回のネパール、アマ・シンセカンダリースクールへプレゼントしたもの、あるいは、学校の倉庫にこれから活動のため預けてきたも等の内訳につきましては以下の通りです。

グローブ 15個、ヘルメット 12、ゴムボール 48個、キャッチャー道具一式、
硬球 15個、ユニフォーム（上7、下9、アンダーシャツ 12、帽子 8、ベルト 6、ストッキング 7足分）、
軟式用ボール 36個、スパイク 25足、練習用ボール 21kg、バット 12本、トンボ用木材 20kg、
ティーボールセット 3セット
以上

（尚、運送料につきましてはロイヤルネパール航空様のご好意によりサービスして頂きました。）

●今までこの活動に協力していただいた方々

オリックス・ブルーウェイブ 阪神タイガース 傑ZETT 三和銀行樺原支店 傑大宮製作所
吉田義男様 室山皓之助様 橋本守様 アスレチックス BASEBALL CLUB (梶村義之様)
小阪荘園子供会 大阪市立夙愛高校野球部 有村一夫様 内海章雄様 小川ゆり子様
堀池ちづこ様 プール学院大学教職員の皆様 プール学院同窓会「ミヅパ会」の皆様
プール学院大学学生の皆様 難波千日前周辺での街頭募金に協力していただいた方々
他たくさんの方々からご協力いただきました。

ありがとうございました!!



ボカラでのスケジュール

	午前 7:30~10:00	午後 16:30~18:00
6 日 (水)	※ ゴルカリ vs Mt.エベレスト試合	とんぼ作り 6本 キャッチボール
7 日 (木)	ピッチャー・キャッチャー指導 ノック内野・外野 (キャッチング ランニングゲーム の説明)	ビデオ鑑賞 阪神 vs 広島
8 日 (金)	ゴルカリ vs Mt.エベレスト試合 (1-1) ゴルカリ vs 野球部 (2-1)	お休み
9 日 (土)		お休み
10 日 (日)	ノック外野・内野 (デモンストレーションを見せながらキ ャッチングの説明)	タッチアップの説明
11 日 (月)	ゴルカリ vs Mt.エベレスト試合 (6-2) ゴルカリ vs 野球部 (0-1) Mt.エベレスト vs 野球部 (15-5)	お休み
12 日 (火)	ルール説明 (デモンストレーション を見せながらタッチアウトを中心にアウ トの取り方の説明)	素振り (基本姿勢の説明) Tee ボールバッティング
13 日 (水)		お休み
14 日 (木)	ボカラ市長と面会	ハンドベースボール ゴルカリ vs Mt.エベレスト試合 (メンバー交替の説明) (1-2)
15 日 (金)	素振り Tee ボールバッティング シートノック	石拾い スライディング説明・練習
16 日 (土)	ゴルカリ vs Mt.エベレスト試合 (12-6) ルール説明 (エラーの時のカバー方法)	
17 日 (日)	カバー方法の説明 (デモンストレー ションを見せながら説明) 前日の試合の続き (13-6)	子供達とピクニック
18 日 (月)		子供達の試験のためお休み
19 日 (火)	1イニング試合 終了式 ゴルカリ vs Mt.エベレスト試合 (0-11) Pokhara Yeties vs 野球部 (5-4)	

・毎日の練習開始前には必ずウォーミングアップを行いました。

アップ内容→ ランニング 2週・体操・キャッチボール

・練習のある日の前夜にミーティングを行いました。

※アマシンセカンダリースクールの野球チームのチーム名前は Pokhara Yeties (ボカラ イエティーズ) です。その中にはゴルカリチームと Mt.エベレストチームの 2つに分けて試合を行いました。

報告者： 宮田 春香

鬼子のアリーナ

みんなで3,7トニボ作り。



練習前には必ず準備体操



ビデオを使つ日本野球の紹介・説明



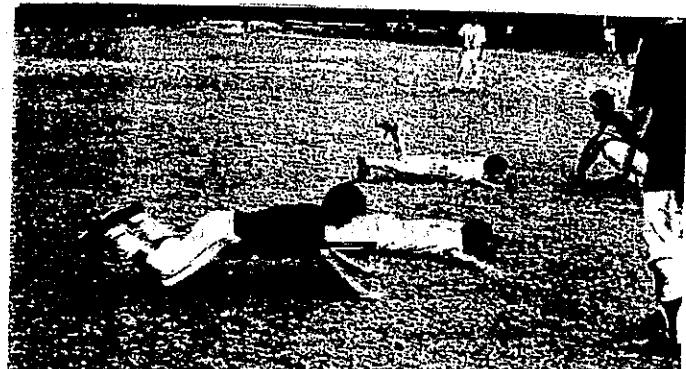
分からぬ時は即ルール説明



昔なづれし手打ち野球



ヘッドスライディングの練習(竹以絶出...)



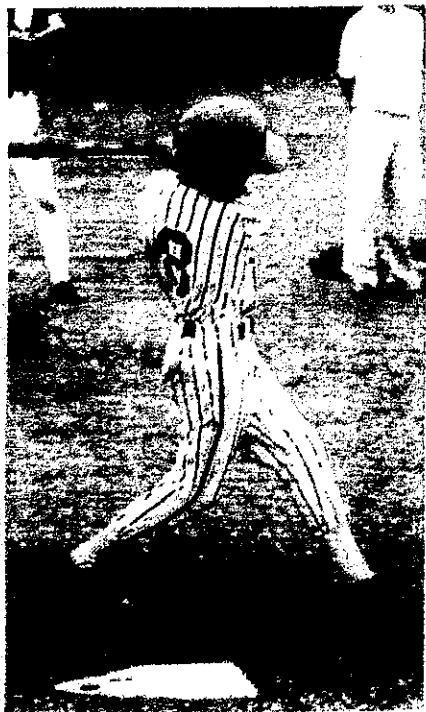


ここで自動車の
グラードには、牛も馬もやってます。教習もやっています。



スピードに
自信あり

日本式野球 試合開始のあいさつ



木影で休息



第2回 ネパール野球紹介活動のご報告

～ 子供たちは野球が上手くなっていました！！ ～

報告者 プール学院大学
ネパール野球紹介活動
代表 赤松弘章

皆様からのご協力・ご支援を賜りまして誠にありがとうございました。

2月末にネパールでの活動を予定し、メンバーを募りましたところ4名が集まり、無事、2回目の野球紹介活動を行ってまいりました。今回の活動より、ネパールでの野球競技の普及に関して、より具体的な結果を得ることができました。

その時の活動内容についてご報告させて頂きます。

第2回 ネパール野球紹介活動

日時： 2000年2月20日～2月27日

場所： ネパール・ポカラ（アマ・シンセカンダリースクール）

指導員： 指導 4名（うち一般参加1名）

目的： 大きく分けて3つの目的で活動を行った。1つ目は、第1回目における野球紹介活動からちょうど半年が経ち、野球のルールに対する新たな疑問・質問がでてきている頃だと思われるため、再度のルールの説明・確認を行う。2つ目は、野球の技術におけるレベルアップを目指し、1回目の活動に引き続き、練習方法の指導・説明を行う。3つ目は、ネパールの紹介活動を行っているアマ・シンセカンダリースクールで野球紹介活動の委員会を発足してもらう。日本の野球紹介活動のグループとの質問、相互連絡などを円滑にするため。また、そうすることによってアマ・シンセカンダリースクールを拠点とし、交流の多い隣り合う他のセカンドリースクールの生徒間で野球紹介交流を広げてもらう。以上3つが第2回目活動の主な目的である。

結果： 野球に関する疑問・質問を解消することができた。また、新たに細かいルール（ピッチャーのボーグについて等）の説明を行った。試合を行い参加者全員との交流を深めた。また、委員会の発足に関しては次の通りである。

野球紹介における委員会の発足

アマシンスクールで、野球の委員会を発足してもらい、学校内での技術向上と野球の普及の協力について話し合った。

メンバー構成

- ・ アマ・シンスクールの校長先生
- ・ 野球紹介活動担当の先生方
- ・ 生徒から代表2名
- ・ その他女性を含む先生方

このような委員会を、他の学校でも設立してもらいアマ・シンスクールの生徒が中心となって、直接教え広めていく方向で話はまとまった。他の学校との対抗試合をしていきたいとのことであった。

また、道具類に関しては、バット・ボール等は専門的な技術を要するため日本

第3回ネパール野球紹介活動 活動報告
(練習内容、感想、問題点、今後への課題など)

編集者：高崎 紀子

2000年 9月6日 (水)

◇ 練習内容

- ・ 練習試合
- ・ トンボ作り (作り方、使い方)
- ・ ノック (フライの捕り方)
- ・ ピッチング
- ・ ルール説明
- ・ 石拾い

◇ 感想

- ・ 去年から野球を続けている子がたくさんいたが、やめてしまった子もいて残念だった。
- ・ 野球を楽しんでくれていたのでよかった。
- ・ とても歓迎されたので驚いた。
- ・ 子ども達は明るくて、練習をやっていて非常に楽しかった。
- ・ 野球を教える難しさを実感した。不安もあるが期待もある。

◇ 問題点

- ・ 雨季の期間中、練習ができなかつたせいか、技術的に低下している生徒も見られた。
- ・ 全体的にバッティング、ピッチングの基礎ができていないので、試合を楽しめるまでになっていない。
- ・ グラウンドがなく、石が多い土地で練習をするので危ない。
- ・ 言語的に子ども達とのコミュニケーションがうまくいかず、細かい指示内容が伝わっていない。通訳の人に助けてもらったが、なるべく自分の口で伝えたい。

◇ 今後への提案

- ・ 雨季の期間を利用して基礎トレーニングをする。
- ・ ノックやフリーバッティングの機会を増やし、打つことの楽しさを子ども達に教える。
- ・ 口で教えるよりも、まず子ども達が納得するまで見本を見せるべきである。

2000年 9月7日 (木)

◇ 練習内容

- ・ 内野・外野ノック
- ・ ランニングゲーム
- ・ 日本のプロ野球のビデオを見ての質疑応答
- ・ バントの説明

◇ 感想

- ・ プロ野球のビデオを見ている子ども達の目が真剣で、野球を本当にやりたがっている気持ちが伝わってきた。これから、どう上手く野球を楽しみながら練習していくか考える必要がある。
- ・ 子ども達の中には捕球が上達した子もいて、ノックを楽しんで練習していたので、こちらも楽しむことができた。
- ・ チーム全体の雰囲気がよくなってきていている。子ども達同士で教え合う場面も見られた。

◇ 問題点

- ・ 通訳の人が野球のルールを理解できていなかったので、細かいルールの説明が苦労した。
- ・ ノックの練習で、捕球の仕方が上手くいかない子がたくさんいる。ボールの落点が理解できていないようだ。
- ・ けがの手当ての際にコミュニケーションがとれず困った。

◇ 今後への提案

- ・ 楽しく教えること。また、見本を見せること。
- ・ 良いプレーをしたら、讃めること。子ども達は何か1つ良いプレーをすると全員が喜んで、自分もがんばるぞという気持ちになる。
- ・ 捕球の練習も続けながら、打つことの練習も必要。ランニングももっとやりたい。
- ・ 何をするにもゲーム方式を取り入れると、子ども達も楽しんでやっている。
- ・ ルールをはっきり理解させることが必要である。
- ・ ビデオをもっと見せて少しでも野球のおもしろさを子ども達にわかって欲しい。
- ・ 何よりも子ども達との信頼関係を築いていこう。

2000年 9月8日 (金)

◇ 練習内容

- ・ キャチボール
- ・ ノック
- ・ ルールの説明 (パーク、タッチアップなど)
- ・ 練習試合 ゴルカリ×M.t. エベレスト (11-1 ゴルカリ勝利)
ゴルカリ×日本人チーム (2-1 ゴルカリ勝利)

◇ 感想

- ・ 練習試合で日本人チームが子ども達に負けてしまい、子ども達が本気で野球が上達してきているのを実感した。子ども達は試合に勝って本当に喜んでいた。野球を楽しんでいるようだ。試合に勝ったということが子ども達のやる気につながったのではないか。
- ・ 日本人チームが試合に負けたのは指導者として不十分なこと。次は良い見本になるようにしなければと思う。

◇ 問題点

- ・ ルールがきちんと理解できていない。
- ・ 試合中、外野の選手は内野の選手がこぼした球をカバーして自分が拾うべきところを、内野の選手まかせにして自分は何もしないということが見られた。チームが1つになってプレイすること、誰かのミスを自分がカバーしようというチームプレイの精神がまだできていないのではないか。
- ・ 指導の仕方として基本が抜けているところがあるのではないか。その先の難しいことを多く言い過ぎているようだ。

◇ 今後への提案

- ・ ビデオを常に撮っているのを子ども達に見せると自分の姿がよくわかっていていいと思う。

2000年 9月10日 (日)

◇ 練習内容

- ・ キャッチング指導
- ・ ノック
- ・ ピッ칭練習
- ・ タッチアップの説明

※雨天のため、あまり練習ができなかった。

◇ 感想

- ・ 細かい基礎練習があまり理解できていないように見える。
- ・ 全体的に指導することが難しくなってきている。
- ・ 練習も4日目に入り、子ども達との仲も親密になってきた。しかし、そのせいで練習中と休憩時間とのけじめがなくなっているような気がする。練習中は指導者として厳しくしていかなくてはならない。野球を教えることと、子ども達との仲を深めることにメリハリをつけていくべきだ。
- ・ 自分達の間にも練習の疲れからか「だらけ」が見えるようになってきた。それでいて、子ども達のだらけを注意するのはおかしい。自分達も心を入れ替え気を引き締めて野球を教えていくべきだ。

◇ 問題点

- ・ 雨の日の練習は子ども達の身体のことを思うと考えるところがある。今日はけが人が続出して大変だった。
- ・ 説明をするときはわかっているようでも、実際に行動はできていない。
- ・ 子ども達の捕球は段々上達しているが、移動しながらは難しいかもしれない。
- ・ 雨のせいもあるが、子ども達の集まりが悪い。きびきびして動くべきだ。
- ・ 子ども達の上達度に差がある。

◇ 今後への提案

- ・ 子ども達はスライディングに興味を持っているようだ。スライディングの練習もとりいれていくべきだ。
- ・ きびきびとした行動をとっていこう。
- ・ 今回目指すことはルールを教えることであり、強くすることではない。これからもう一度同じ練習を続けるよりも、いろいろなルールをこなすことである。

2000年 9月11日 (月)

◇ 練習内容

- ・ ルール説明 (タッチアップ、タッチアウト)
- ・ 練習試合 ゴルカリ×M t. エベレスト (6-2 ゴルカリ勝利)
ゴルカリ×日本人チーム (0-1 日本勝利)
M t. エベレスト×日本人チーム (5-15 日本勝利)

◇ 感想

- ・ 前回の試合に比べて、初めからヒットを打つ子が増えている。チームで「試合に勝つぞ!」という気合が入っている。
- ・ 子ども達はプライドを持って闘っているようだ。
- ・ 試合中、対戦していないチームの子ども達が試合を集中して見ていないことへの対応の仕方に困った。
- ・ ルールの説明がうまくいかず苦労した。

◇ 問題点

- ・ ゴルカリのチームはかなり強くなっているが、一方でM t. エベレストは弱すぎて試合にならなかった。差が大きくなっている。
- ・ 試合をするとき、ホームランの境界やキャッチャーの後ろに壁がないのでエンタイトルツーベースやバスボールが当たり前のようになっている。
- ・ まだまだルールの理解がされていないようだ。
- ・ 子ども達の集まりが遅くなっている。

◇ 今後への提案

- ・ 子ども達全体に説明が届くようにして欲しい。
 - ・ ルールは今回で完全に覚えて欲しい。
 - ・ 子ども達も、ネパールに野球を広めるということを心において責任をもって話を聞いて欲しい。
- 以上のことについて通訳を通して子ども達に伝える。
- ・ 手の空いた人間がホームランなどの壁になってあげたらどうだろうか。

2000年 9月12日 (火)

◇ 練習内容

- ・ ルール説明 (アウト、ランニングに関して)
- ・ バッティング
- ・ ティーバッティング
- ・ ランニングゲーム

◇ 感想

- ・ 今日は集まりがよくみんながんばっていた。
- ・ 子ども達も毎日の練習から筋肉痛などが見られるが、よくがんばっている。
- ・ 一生懸命メモをとっている子がいて、英語で書いていたのには驚いた。
- ・ ランナーの説明をしたとき、前日に細かいミーティングをしたので4人という少ない人数でスムーズに教えることができた。子ども達もよく理解してくれて本当にうれしかったし、遅くまでミーティングをやってよかったと思った。
- ・ 今日のルール説明は、わかりやすく自分も勉強になった。

◇ 問題点

- ・ 素振りの練習で子ども達に変な癖がついてしまっているようだった。見本を見せててもスイングは難しいようでなかなか上手くいかなかつた。これは長く野球を続けていかないとなかなか自分のスイングが定着しないので、まず基本を教えた。

◇ 今後への提案

- ・ ルール説明を徹底して行うのも良い。間で説明を入れることでさらに理解してくれるだろう。ビデオを見るのも良い。
- ・ (各個人が)一部の子ども達とばかり交流を深めていってしまっているので、もっと全体の選手達とも交流を深め、いろいろなことを教えていきたいと思う。

2000年 9月14日 (木)

◇ 練習内容

- ・ ハンドベースボール (ゴムボールを使用した野球ゲーム。グローブやバットを使用しない。ゴムボールで練習することを話し、一人一人にゴムボールをあげた。) ゴルカリ×M.t. エベレスト (1-2 M.t. エベレスト勝利)
- ・ ルール説明 (選手交代)

◇ 感想

- ・ ゴムボール野球をしたのは、子ども達にゴムボール1つで野球ができるということを理解してもらいたかったからである。実際にゲームをして、ボールがあれば野球を楽しめるということが子ども達に伝わったのではないかと思う。
- ・ 今日の試合でM.t. エベレストが勝ったことが非常にうれしかった。これでエベレストチームもゴルカリに勝てるという気持ちを持ってくれればうれしいし、次は本試合でも勝ってほしい。
- ・ 残り時間が少なくなってきたので総まとめのように仕上がりしていくといい。

◇ 問題点

- ・ バッターボックスの立ち位置がずれていたので、一人一人直していった。

◇ 今後への提案

- ・ 守備とピッチャーの練習もやりたいが試合も必要である。
(9回までの試合をすることについて)
 - ・ 子ども達は試合をやりたがっているが、練習方法をもっと教えたほうがいいのではないか。
 - ・ 試合をやるとルールが教えやすい。目的はルールを教えること。技術向上ではない。ルールが不明なところはゲームを止めて説明していくと良い。
 - ・ 今できることは試合のときネットを立ててボールを後ろに絶対そらさないようにする。(ホームランの壁がないので)
 - ・ 反則は見逃さず、厳しくとる。

2000年 9月15日 (金)

◇ 練習内容

- ・ 素振り
- ・ シートバッティング
- ・ ティーバッティング
- ・ スライディング

◇ 感想

- ・ スイングを教えているときに子ども達同士で教えあっているのを見て、子ども達が向上心を持っているのに気が付いた。大切なことは練習内容にしても動作の仕方についても我々指導者が見本を見せることだ。そうすれば子ども達は真似をして覚えていくだろう。
- ・ 今日は子ども達が初めて自主的にウォーミングアップを始めた。

◇ 問題点

- ・ 素振りの状態で上手くバットを振っていても、いざとなるとなかなか上手くいかなかつた。
- ・ スライディングの練習では子ども達は興味を持っていたが、簡単にいくはずもなくけが人が多数出た。スパイクではなくシューズを履かせて、ゆっくりする練習から始めるべきであった。
- ・ グラウンドの整備をしたが、石がかなりあり野球をするには大変危険である。

◇ 今後への提案

- ・ 残り数日しかないので、この日数の中でどれだけルールを教えることができるか、また練習内容にしてもたくさんあるので練習の仕方を教えることに専念したい。
- ・ 石を徹底的に拾い、土を埋めたら少しはグラウンドらしくなるのではないか。

2000年 9月16日 (土)

◇ 練習内容

- ・ 練習試合 ゴルカリ × M.t. エベレスト (12 - 6 ゴルカリ勝利)
- ・ ランニング (走り抜け、盗塁)
- ・ ランニングゲーム
- ・ カバーの説明

◇ 感想

- ・ 今日の試合、確実にレベルが上がっている。ルールも理解しつつある。試合もスムーズにいき、間違ったところはゲームを止めて説明を行った。この方法はとても良い練習だったと思う。しかし、思っていた以上に変なところでルールがわかっていないことが多いかった。
- ・ 試合をして大体野球らしくなってきたが、振り逃げやホースアウト、フライの捕球、リードの仕方がわからていなかった。
- ・ ネットを張ったことでより試合らしくなり、ワイルドピッチの説明もできるようになった。
- ・ ランニングゲームは子ども達にとっても楽しめる練習のようだ。
- ・ ピッチャーの選手がボールをきれいに洗ってきていたのですごくうれしかった。

◇ 問題点

- ・ 打順があまりわからていなかった。
- ・ 振り逃げの説明は少しの説明だけでは理解しづらそうだった。
- ・ けが人が増えているのが気になる。どこまで痛いのか十分にわからないので無理をさせづらい。
- ・ ボールを捕りに行くべきポジションの子が動かない。ランナーがいるときはベースから離れない子がいる。

◇ 今後への提案

- ・ ホームランのラインをもっとちゃんとすべきである。
- ・ 状況判断を教えていく。はじめは漠然とした説明でよいのではないか。そのうち自分でカバーを理解していくのではないか。

2000年 9月17日 (日)

◇ 練習内容

- ・ 守備の状況判断 (ホワイトボードを使用してのカバーの説明)
- ・ ランニング (走り抜け、タッチアップ、振り逃げ)
- ・ 練習試合 ゴルカリ×M.t. エベレスト (13-6 ゴルカリ勝利)

◇ 感想

- ・ 試合の途中で時間切れとなり、終わってしまったのが残念。
- ・ 子ども達はとにかく試合をしたがっている。自分達が帰ったときに試合ばかりやっていそうで心配だ。
- ・ あとは最終日の試合を残すのみ。できるだけの指導はやった。

◇ 問題点

- ・ タッチアップが練習のときにはできいていても、試合になるとできていないところがあった。
- ・ 試合中、フェアエリアでグローブにボールが当たってからファールゾーンに出たときの事がわからっていないように、細かいルールで理解できていないところがまだ見られる。

◇ 今後への提案

2000年 9月19日 (火)

◇ 練習内容

- ・ 試合 ゴルカリ×Mリ、エベレスト (11-1 ゴルカリ勝利)
YETIS × 日本人チーム (5-4 YETIS 勝利)
- ・ 終了式

◇ 感想

- ・ 今日、最後にポカラYETISと対戦して負けてしまった。悔しい。

◇ 今後への提案

- ・ 野球の活動を夏と冬、年2回にして定着させていくことが大切だと思う。